

子どもにとって楽しい

音楽リズムのあり方を考える (2)

原口 純子

I 主題について

II 研究方法

III 研究内容

0、活動の洗いあげ一覧 (P 50・51の表)

1、歌唱 (1) 種類と傾向、考察 以上五月号掲載

(2) 歌の指導方法

子どもには歌はどのように指導され、子どもはどのようにして歌をおぼえているか。

事例1 一斉指導 年少「すてきなパパ」

導入部：「みんなのお父さんってどんなかな」と問いかけてイメージを持たせる。

教師が歌ってみせる

←

教師と知っている子で、一緒に歌う

←

二小節ずつこまぎれにして歌う

←

ピアノの伴奏をつけて、全体通して歌う

←

歌い方の指導をする

事例2 自由形態↓一斉活動 年少「こいのぼり」

(12月)	(11月)	(10月)	(9月)	(7月) IV
<ul style="list-style-type: none"> ●あわてんぼうのサンタクロース ●ジングルベル ●むつくり熊さん 	<ul style="list-style-type: none"> ●こぶたぬきつねこ ●みんなの広場 ●ほんすしゅう ●こねこねこのこ 	<ul style="list-style-type: none"> ●どんぐり ●秋の小人 ●エータムタム ●まつぼっくり ●さくのはな ●さくこの ●やさいも ●でふいもちゃん ●ちびいもちゃん ●おもちゃのチャチャチャ 	<ul style="list-style-type: none"> ●バスこっこ ●えんそくのうた ●こおろぎ ●こおろぎ ●ゆうやけこやけ 	<ul style="list-style-type: none"> ●うみ ●七夕 ●キラキラ星 ●七夕さま
<ul style="list-style-type: none"> ●小さな世界 ●みんなであつくり ●カレンジャー ●シングルベル 		<ul style="list-style-type: none"> ●遠足 ●まつかな秋 ●小さな秋 ●バスついでいな ●うたえバンバン ●どんぐり ●ころころ ●まつぼっくり ※各クラス生活発表会用の歌指導 	<ul style="list-style-type: none"> ●こおろぎ ●おじいちゃん ●おばあちゃん ●こどもの世界 ●友達讃歌 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなでつくろう ●七夕さま ●パンダグダバヤ
<ul style="list-style-type: none"> ●たのしいオーガスチン 	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘーイ ●タンプリン 		<ul style="list-style-type: none"> ●こおろぎ ●ハイホー (カスター) 	
<ul style="list-style-type: none"> ●キラキラ星 (ピアノ・木琴) 	<ul style="list-style-type: none"> ●おもちゃのチャチャチャ 	<ul style="list-style-type: none"> ●キャベツの おやま 	<ul style="list-style-type: none"> ●ミッキーマウス 	
<ul style="list-style-type: none"> ●大工さんの金づち ●むつくり熊さん ●キャベツを植えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ●カーラス・カズ ●ノコにしの子 			
<ul style="list-style-type: none"> ●あぶくたつた ●かこめかこめ ●はないちもんめ 		<ul style="list-style-type: none"> ●はないちもんめ ●あぶくたつた ●にえたつた ●だるまさんがころんだ 		
	<ul style="list-style-type: none"> ●キャンデー ●ワルツ 		<ul style="list-style-type: none"> ●クリミーマミ ●動物体操 ●野外劇用ダンス ●大きく小さく ●ハイホー ●友達讃歌 ●ラッキーセブン 	<ul style="list-style-type: none"> ●盆おどり ●年少大漁節 ●くまちゃん音頭 ●ドラエモン音頭
<ul style="list-style-type: none"> ●生活発表会のおどり ●花のおどり ●姫のおどり ●フォークダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ●田んぼの中の1けんや 		<ul style="list-style-type: none"> ●クリミーマミ ●動物体操 ●白ゆきひめ ●花の精 ●まほうつかい ●王子 ●フォークダンス 	
<ul style="list-style-type: none"> ●こんべさんの赤ちゃん 		<ul style="list-style-type: none"> ●やさいもやさいも ●グーチーパー 		
<ul style="list-style-type: none"> ●こんべさんの赤ちゃん 	<ul style="list-style-type: none"> ●おろかものうた ●お寺のおしょうさん 			

導入部：こいのぼりを庭にあげた時、その下で見上げながら教師が歌う

← (二・三日くり返す)

一斉活動として：「みんなにこいのぼりの歌を教えてくださいようか」一番をゆっくり二回教師が歌う

←

伴奏なし：子どもも一節ずつ言葉をはさみながら歌う

← (三・四日くり返す)

教師のピアノの伴奏に合わせて歌う

事例3 レコードから歌を覚える。年少「みんなの世界」

食事の時間に「みんなの世界」のテープをかけておく。自然に子ども達が口ずさめるようになる。だいたいみんながわかるようになってから、教師のピアノに合わせて歌う。

事例4 踊りを通してレコードの歌を覚える。年長「キャンディーキャンディー」

運動会の野外劇に選曲した歌をかけて四日ぐらい練習

しているうちに踊りと一緒に歌を覚え、踊りながら歌い、又踊った後歩きながら自然に口ずさんでいる。

事例5 遊びの中で、その場に合った歌を、先生がどん

どん歌って聞かせる。

遊びの中でその場、その場で歌の時間と限らず歌う。

粘土を作っている時、象の鼻を作っている子がいれば

「象さん」の歌、カエルをとりに行った時には、「カエル」の歌、七夕飾りを作りながら、「七夕」や「星」

の歌を先生が口ずさむ。

△考察▽ 事例1は伝統的な歌の教え方としてごく普通のものである。日本では歌の指導はピアノの伴奏と密接にくっついている。近代音楽教育が明治時代に外来の輸入文化として入り、その導入時に歌はピアノ伴奏と一緒に入ってきた事と無関係ではない。ピアノの伴奏をつけて歌を教えようと思うと自由形態の指導はやりにくい。一つはピアノが大きくて子どもの方を向いては使えない楽器であり他の一つの理由はピアノの音が大きくてクラス中に響きわたるせいでもある。さま

さまざまな活動が自由選択活動になっても歌の指導だけが一斉形態の活動として残ってきた理由の一つである。時にはあまり歌いたくない子どもが集められて歌わされるためにどなり声やわざとふざけて歌う子が出てくる。椅子に座らされ義務として歌わされるのではなく、できるだけ楽しいものとして歌を経験させたいものである。

事例2、3では、レコードであれ、教師の声であれ、教えようとする前に十分歌になじませておいて、教師が伴奏をつける段階では、子どもは、歌詞も自然に覚えほとんど歌えるようになっていく為、不安が少なく自信をもって歌うことを楽しめる。

事例4から、歌は体を通しリズムを感じながらごく自然に覚えることがわかる。遊びの中で口ずさんでいる歌は、ペガサス、キャンディーキャンディー、ロックスロールなど、レコードから覚えた歌が多い。

子どもに、歌を教えるとか、音楽的環境をつくるのは、レコードもよいが本来は折々に教師が生の声で歌

いかけるのが望ましいことかも知れない。(事例5)

歌の指導がピアノの伴奏をひきずっているが故に生活の中にとけこみにくかったことを考えると、幼稚園における歌の指導は、ピアノに固執せずにもっと子どもの方に顔を向けながら、生の声で又はレコードやテープを上手に使用して子どもと一緒に歌ったり体を動かして踊ったりしながら、歌うことを共に楽しむことが大切だと思われる。

このことにより音楽は、教師主導の一斉活動から、自由な活動として子どもにも選択できる活動となる。

2 楽器

(1)種類と傾向

幼稚園で子どもが用いる楽器は、主としてカスタネット、スズ、タンブリン、トライアングル等の打楽器を中心としたものである。これらの楽器は、教師側の管理上の都合から、即ち自由に使用させてこわされては困るか、やたらに鳴らされるとうるさいなどの点から、従来

選択活動として与えにくい活動になっていた。しかしクラス毎に子どもに扱える教材として楽器を与え、テープレコーダーを自由に操作させることにより、楽器も、子どもたちでテープをまわして自由に打って遊べる活動になってきている。使用する曲は「ヘイ！タンブリン」「大きなたいこ・小さなたいこ」「おんまはみんな」など、リズムのはっきりした曲が用いられている。

(2) 指導方法

事例 6 カスタネットとの出会い。年少 5月「おもちゃのチャチャチャ」

カスタネットを朝目につくところにおいておく。見つけたK男が「なんだこれ？」カスタをぶらぶらさせて音を出して見る。頭にぶついたり、二個持ってガチャガチャしている子どももいる。大よろこびで、ガチャガチャ鳴らして歩きまわる子。初めて見た子、姉兄が持つて知っている子等それぞれのそなえによってちがってくる。教師は一段落したところでカセットテープをかける。(おもちゃのチャチャチャ)五回くり返

したあと教師が先頭になってカスタネットを鳴らしながら行進した。

事例 7 カスタネットを指導する。年少 6月「キラキラ星」

自由打ちを何度か経験した後全員でカスタネットを使う経験を持たせる。全員一斉活動

(ア)カスタネットの正しい持ち方、打ち方の指導

赤い方を手のひらにつけること。中指にゴムをかけること。打つ時は軽く打つこと。

(イ)教師のリズムをまねして打つ。

教師ターンターンタンタンタン、子ども同じに打つ。

(ウ)「手をたたきましよう」の擬似音のところを打つてみる。キラキラ星のリズム打ち。

(エ)楽器の扱い方を知らせる。大切にする。投げない。

事例 8 ピアノと木琴で合奏する。年長 12月「キラキラ星」

朝、木琴を机の上に出しておく、女児四名が木琴をたたき、いろいろな音を出していたが、キラキラ星

をひく子がでると、他の子どもみんなキラキラ星をたたく。ピアノはF子がひいて、自然に合奏ができた。全員ピアノを習っている子どもたちである。ドレミのわからぬM子には、教師がシールをはって目じるしをつけ、教えるとき意欲的に取りくんだ。

△考察▽ 楽器は、特に年少の子どもにとっては、音の出るおもちゃとしてとらえられる。「これは一体何であるか」という感じであらう。体のおちこちによつてみたりする。(事例6) 音が出るのでうるさくなる。レコードをかけることよってリズムをすることの楽しさがわかり、しだいにそろって打つことによるこびを感じるようになる。(事例6) 教師の側としては、(事例7)に見られるとおり扱い方や打ち方について、ひととおりの知識を与えることも管理上必要であるし又そろってすることの快感を経験させることができる。

けん盤楽器は、一般に幼児には向かないものであるが、家庭でピアノを習っている子どもたちにとって

は、抵抗なく楽しめる楽器になっていることがわかる。無理に教え込むとか練習させるのでなければ、年の12月ごろには合奏として楽しめることがわかる。曲としてはいずれも、知っている曲、リズムのはっきりした曲を打っている。(キラキラ星)分担奏は、生活発表会などに度々行なわれているが、年長児でもかなり教師の指導が必要であり、待ったり注意されることの多い活動である。

— つづく —

(つくば市立桜南幼稚園)

